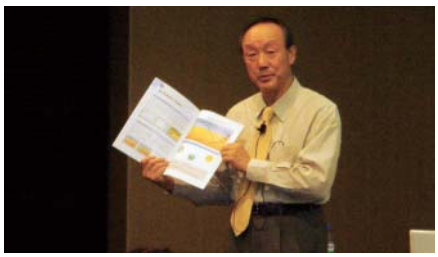
From The 同窓会だより Alumni Association

■福岡歯科大学同窓会主催第23回学術講演会

『救歯臨床のススメ』―歯を救って長期に守る―講演会報告

中 四良（5期）



平成21年11月1日（日）午前10時から、天神クリスタルビル3Fで、東京都開業の黒田昌彦先生を講師に迎え学術講演会が開催された。黒田先生は、「コーヌスクローネ」の著者で歯科補綴学の分野や歯科医師会でかかりつけ歯科医を推進した高名な先生ですが、今回は『救歯臨床のススメ』―歯を救って長期に守る―と題して御講演を頂いた。

救歯臨床とは、黒田先生が名付けた言葉で、「歯を抜かれて喜ぶ患者様はいない」ということから歯を救う努力をし、次に、歯がどうして抜けるのか、抜けないためにはどうするのかを検討する歯科臨床のことを言います。御講演では、先生の30年以上にわたる継続管理された患者様から得た検証をパーシャルデンチャーの症例を中心に報告された。まず、パーシャルデンチャーの支台装置の設計で重要なのは、支持＞安定＞維持の順であり、特に支台歯を長持ちさせるためには支持を支台歯の根尖方向にかけられるコーヌスクローネの支台装置の優位性を述べられた。また、先生の症例で説得力があったのは、初診から現在まで継続管理している患者数が1,613名で、そのうち10年管理した患者数が702名、20年～30年管理した患者数は283名もいることである。そして、患者様のモチベーションをあげるために、東京都衛生局が1994年に東京都歯科医師会と協力して作製した歯の生涯図（現在歯数と年齢との相関関係）を活用していることやスタッフとともに取り組んでいることも述べられた。

最後に、救歯臨床のこころがけとして、とことん歯を残す努力をし、患者様と向き合って継続受診に努力することを惜しまないことを述べられて閉会した。

■同窓会通信　「高嶺 明彦氏　無念」

顧問　寺尾 隆治（1期）

民主党が政権政党となり50年体制が崩壊した。歯科界も御多分に漏れず対応に右往左往しているのが現状である。我々歯科医師は国から資格を与えられ、国民に上質な歯科医療を提供する責務を負わされている。政権が変わろうとも我々の責務は変わらない。今まで通り日々の診療に真摯に取り組めば良いのである。しかるに日歯は、国民のための歯科医療政策を基本理念に則って政権与党に提示し、その実現のためには歯科医院の経営の安定も不可欠であることを訴えなければならない。もし、現在の与党で我々の願いが叶えられないのであれば、野党を選択すれば良いのである。勿論、日歯と連盟において議論を尽くした結果である事は当然の事である。日歯連盟は8月に職域代表統一候補者として同窓生である沖縄県の高嶺明彦氏を決定した。我々同窓生は歓喜に沸いた。しかし、政権交代直後の臨時評議員会で自民党からの出馬取り止め、また、高嶺候補自体も白紙にしてしまった。事情は判らなくは無いが、余りにも主体性に欠けた性急過ぎる判断ではなかっただろうか。もう少し議論があっても良かったのではないだろうか。この事に一番翻弄されたのが高嶺氏自身である。氏が「歯科界のために何とか役に立とう」と立候補を決意し、日歯評議員会での出馬の決定前後、終止一貫して情熱を燃やし精力的に活動していたのを間近で見てきた私には、氏の無念さを思うと今もって掛ける言葉が見当たらない。高嶺氏にはこの無念に沈む事なく、新たなステップに向かって動き出して欲しい。この苦境にある歯科界に一筋の光明が射す様に、国民の歯科保健・医療が向上するためにも、氏の知恵を役立てられる場に立って欲しいと願っている。心から高嶺明彦氏にエールを送る。

卒業生トーク

「Towards global eminence」

桝尾 陽介（29期）

今、私は本学の総合歯科の大学院に在籍しています。総合歯科の大学院では口臭の研究をして、去年はドイツのドルトムントにもいかせてもらえました。今年はスペインのバルセロナで開かれる学会にも参加する予定です。

大学院に入って2年目になりますが、特に去年は大学院の交流事業で韓国、ソウルの慶熙大學校に2週間の短期研修をしたことです。慶熙大學校は大きな総合大学で、キャンパスのきれいさと歯科大病院のシステムには感動しました。今回の表題のTowards global eminence（世界の卓越を目指せ）は大学のスローガンです。

韓国の歯学部は、一度4年制大学を出てそれから入学するアメリカの歯学部と同じカリキュラムです。特に男性は兵役が2年間義務づけられているのでかなり大変です。韓国の学生に大学の実習の打ち上げにも呼んでもらって、とても楽しい時間を過ごしました。私が今回驚いたのは韓国の歯学生の語学力の高さでした。私も英語と韓国語をもっと勉強して、今度会ったときに驚かせてみようと思っています。

このような数多くのことを体験できるのも歯科大関係者や、同窓の先生方のおかげです。この場をかりて深く感謝します。

最後になりましたが、今年一年の大学関係各位のご健康とご多幸をお祈り致します。

慶熙大學校歯学部3年生との記念撮影